

講義名	対)19～オフキャンパスプログラム /15～キャリア実習			
担当教員	小幡 祐可子 / 前川 明 / 中山 一郎			
開講期・曜日・時限	前期 水曜日 3時限	授業形態	実習	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考
主題と概要				
<p>受講生は、企業へインターンシップに行くことによって、職業観を醸成し、社会人として活躍するための準備を行う。具体的には、事前に自己分析、業界・企業・職種研究、マナー研修を行う。インターンシップ先の選定は自らが言い、計画的にインターンシップへの参加を進めていく。インターンシップ先では仕事とは何か、企業実習に参加することで学ぶ。そして、実習後は報告書を作成し、将来の就職活動につなげていく。</p>				
到達目標				
<p>【対面授業】この科目は、「対面型」で実施します。到達目標の達成のためには、授業形態や扱う教材等の関係上、対面型での授業が望ましいためです。「オンデマンド型」ではありませんので、時間割通りの時間帯に指定された教室で授業に参加してください。なお、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が困難となった学生には、別途個別に相談しながら対応していきます。ただし、状況によってはシラバスが変更する可能性もあります。</p> <p>インターンシップ先の選定、企業実習を通じて、実社会において必要なビジネス・スキルの基本を身につける。また、職業への理解を深め、職業選択能力を高めるとともに、将来のキャリアビジョンを明確にする。</p>				
提出課題				
<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ計画書（3日間以上のインターンシップ参加予定計画書） ・企業実習日誌 ・実習報告書 				
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック				
<p>毎回の授業で提出するミニレポートについてはクリッカー（Respon）もしくはリアクションペーパーを使用し、次の授業の冒頭で、前回授業のミニレポートの内容（感想、質問）を紹介し、必要に応じて、解説、回答を行う。</p>				
評価の基準				
<p>事前講義ミニレポート 40%</p> <p>提出課題の内容 60%</p> <p>3日間以上のインターンシップへの参加が出来ない者、事前、事後講義の受講姿勢の良い者、事前、事後講義の欠席が多い者は単位を認めない。また、事後講義（インターンシップ報告会）は必ず出席すること。</p>				
履修にあたっての注意・助言他				
<p>実習は、企業との協働による学修である。そのために、企業の立場に立って行動することが前提となる。日頃から対人関係やビジネスマナーを身につけるように心がけること。</p> <p>具体的には、授業の受講時には、企業での実習時と同じように、決められたルールを厳守すること（例）遅刻、私語、居眠り、途中退席等は厳禁</p> <p>企業実習に行く前に、必ず事前講義、マナー研修を受けること</p> <p>レポート・報告書等は、寮の向上に努め、決められた期限に提出し、必ず、インターンシップ報告会に出席すること。</p> <p>また、インターンシップ先は自ら選定するため、夏休みも3日間以上インターンシップに参加できるように、時間に余裕を持って計画的に進めること。</p>				

教科書				
.教科書はなし。				
プリント資料及び参考文献				
<p>授業において随時、プリント資料を配布します。 参考文献も随時、説明します。</p>				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクッション（中山、小幡、前川） 2 就職活動を見据えたインターンシップについて（中山、小幡、前川） 3 マナー研修（小幡） 4 企業研究の考え方（中山） 5 自己PR、ガクチカを考える（中山） 6 インターンシップ先の選び方（前川） 7 インターンシップ計画作成（前川） 8・9 マナー研修（小幡） 10～13 企業での実習 14・15 インターンシップ報告会（中山、小幡、前川） 				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
ア：PBL（課題解決型学習）				イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート				エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション				カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）				
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関連する本や新聞記事や雑誌を読んだり、ニュースをチェックしたりする習慣を日常的に付け、特にキャリア・就職・労働・雇用・ビジネスなどといったキーワードには注目するようにしておく（毎日30分） 2. 授業で学んだことの復習や実践（毎回1時間） 				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
<p>当該科目は、インターンシップに参加するための準備として、自分の強み・弱みを知ること（自己PR）。また、働くことの意味（価値観）、自分にとって良い会社の定義で志望動機を考えること。さらに、自己アピール力、プレゼンテーション力、交渉力（グループディスカッションなど）を高め、夏休みには実際にインターンシップに参加することを目的とした授業であり、「働く目的と仕事観の醸成、自身の適性と適職探し、職種と業種の特性分析等を体系的に行うとともに、就職力を高めるための実践的科目」というキャリア科目のCPとまさに合致していると考えられる。</p>				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
実務経験の有無及び活用				
<p>実務経験あり この科目を担当する3名の教員はキャリア教育の専門家として、本学学生だけでなく、他大学も含めた多くの大学生の就職支援、キャリア教育に従事し、その経験を生かして、大学での学びや大学生活（課外活動など）での経験が、どのように社会で役に立つのかを実例を交えて解説を行う。</p>				
備考				